

Scandinavian Flooring® 3層フローリング施工ガイド

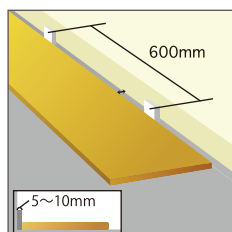
施工時の注意事項:

どの施工方法においても次の点に注意して下さい。

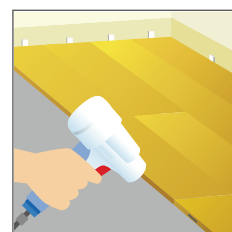
- 1 3層フローリングでも温度・湿度の変化により多少なりとも必ず伸縮します。壁際は 5~10 mm 程度のクリアランスを取って幅木を後付けしてください（フローティング工法の場合は 10 mm 以上のクリアランスが必要です）。掃き出しサッシとの取り合いも見切り材を使いクリアランスを取るようして下さい。
- 2 接着剤はウレタン系またはエポキシ系の木質フローリング用ボンドをお使いください。
通常：1液型ウレタン系接着剤（コニシ KU928 等）
直貼り等湿度の高い環境の場合：2液型エポキシ系接着剤（コニシ E350R 等）
- 3 フローリング（特に表層）を直接ハンマーでたたかないようにして下さい。必ず当て木をお使いください。
- 4 フローリング間のスペースは不要です（デザイン的にスペースを取って施工して頂くことは可能です）。サネはしっかりと差し込んで下さい。

A ノリ・釘併用捨て貼り工法

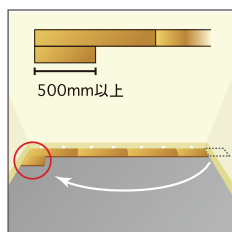
- a 12mm 厚以上の耐水合板を捨て貼りにします。下地にウレタン系またはエポキシ系の接着剤を全面接着します。メザネ側を壁面に向けて施工を始めます。壁際に 60cm 程度の間隔でスペーサーを入れ、縦横両方の壁との間に 5~10mm 位の隙間を確保してください（フローリングは温度湿度の影響により必ず膨張収縮します）。この隙間は幅木などで隠して下さい。特に 1 列目をまっすぐに貼ることが重要です。



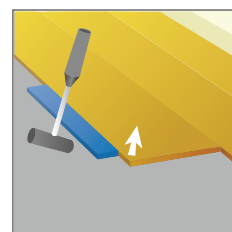
- b 長さ 38mm のスクリー釘かオザネ部分を傷付けないようにコンプレッサー圧力を調節したタッカーで施工していきます。釘止めの場合は、60cm 以下のピッチで 45~50 度の角度でオザネに打ち込んで下さい。



- c 前の列の最後で 50cm 以上床材が余った場合は、それを次の列の先頭に持ってきます。

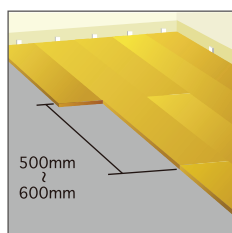


- d 当て木をプラスチックハンマーで軽くたたきながらサネ部分を結合していきます。



注：フローリング、特に表面層を直接ハンマーでたたかないでください。必ず当て木をお使いください。

- e 隣り合うフローリングのエンドマッチの結合部分の間隔は 50~60cm 程度あけるように施工して下さい。

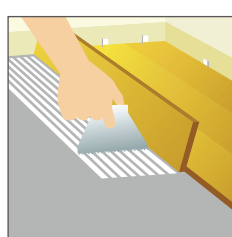


- f 列の途中で配管などが来る場合は、フローリングの膨張収縮を見越して、充分余裕を取ってカットして下さい。その部分は幅木等で隠します。



B 全面接着工法

- a 釘打ちが出来ない下地で、不陸が無く十分乾燥した状態であれば全面接着工法による直貼りが可能です。下地にエポキシ系接着剤を全面接着します。サネ部分はウレタン系接着剤を使い接着して下さい。



C フローティング工法 -北欧の住宅では最も一般的な施工方法です-

- a メザネにウレタン系接着剤を塗布して下さい（縦方向およびエンドマッチ両方に塗布）。

